東北縦貫線事業概要

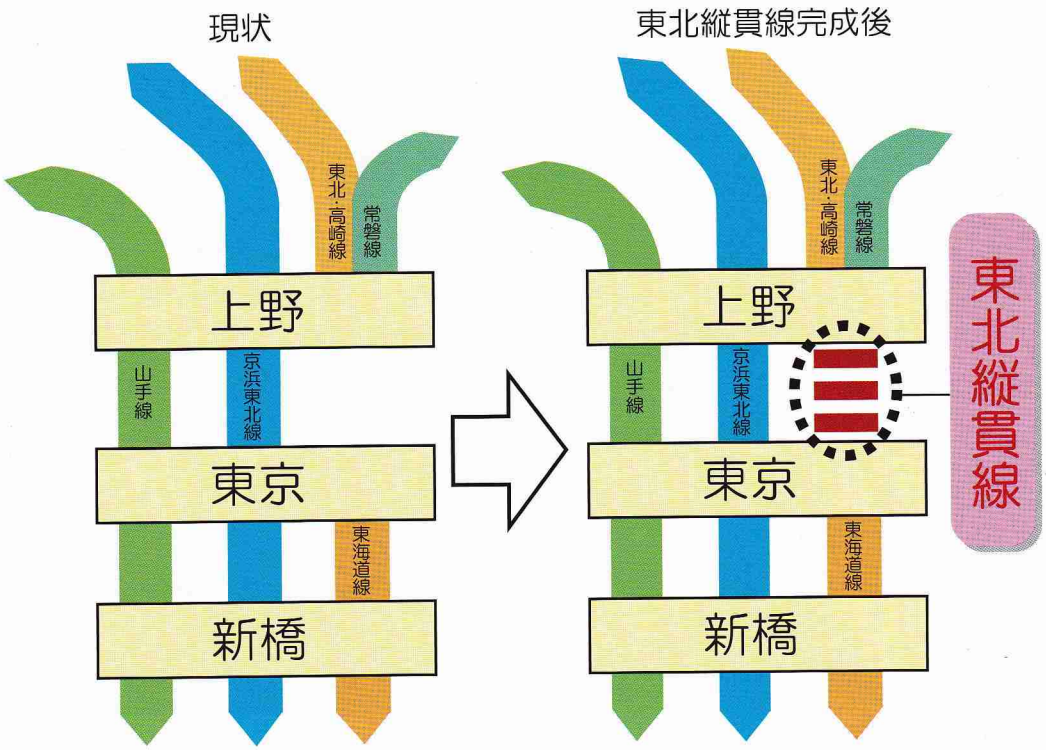
東北・高崎・常磐線の東京駅乗り入れ及び
東海道線との直通運転について

東日本旅客鉄道株式会社

■ 計画概要

現在、東北・高崎線、常磐線は上野駅終点となっていますが、神田駅付近の新幹線高架橋を重層化し、東京～上野間に新たに線路を敷設することにより、一部の列車を東京駅まで乗り入れます。それとあわせて東海道線との直通運転も実施します。

これによって「混雑緩和」「速達性の向上」「鉄道ネットワークの強化」が図られます。
東北縦貫線は、旧運輸省（現国土交通省）における運輸政策審議会答申第１８号によって整備が位置付けられています。

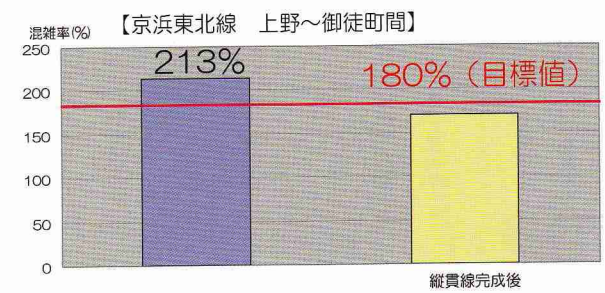


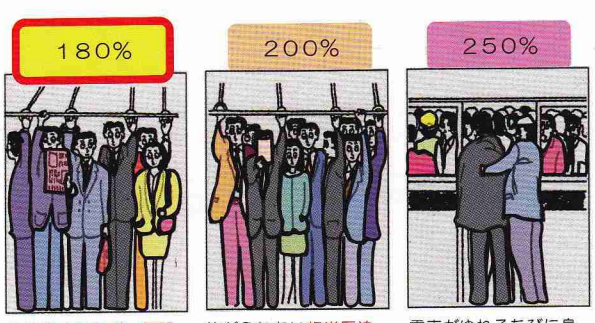
■ 期待される効果

・混雑緩和

朝通勤時間帯の混雑率が最も高い（213%：平成18年度）京浜東北・山手線上野～御徒町間で、混雑率が１８０%以下に緩和されます。

なお、第１９号答申では、大都市圏における全ての区間のそれぞれの混雑率を１５０%以内とすることを目標にしています。





体はふれあうが、新聞は読める

体がふれあい相当圧迫感があるが、週刊誌程度なら何とか読める

電車がゆれるたびに身体が斜めになって身動きができず、手も動かせない

（図：国土交通白書より抜粋）

・速達性の向上

直通運転により上野駅や東京駅での乗り換えが不要となり、所要時間が短縮されます。

（上野～品川間で約１１分短縮）

線	区間	所要時間の短縮		乗り換え回数の減少
東北・高崎線	品川～大宮（上野乗り換え）	56分→45分	▲11分	1回→0回
常磐線（特急）	東京～水戸（上野乗り換え）	86分→77分	▲9分	
東海道線	横浜～上野（東京乗り換え）	44分→35分	▲9分	

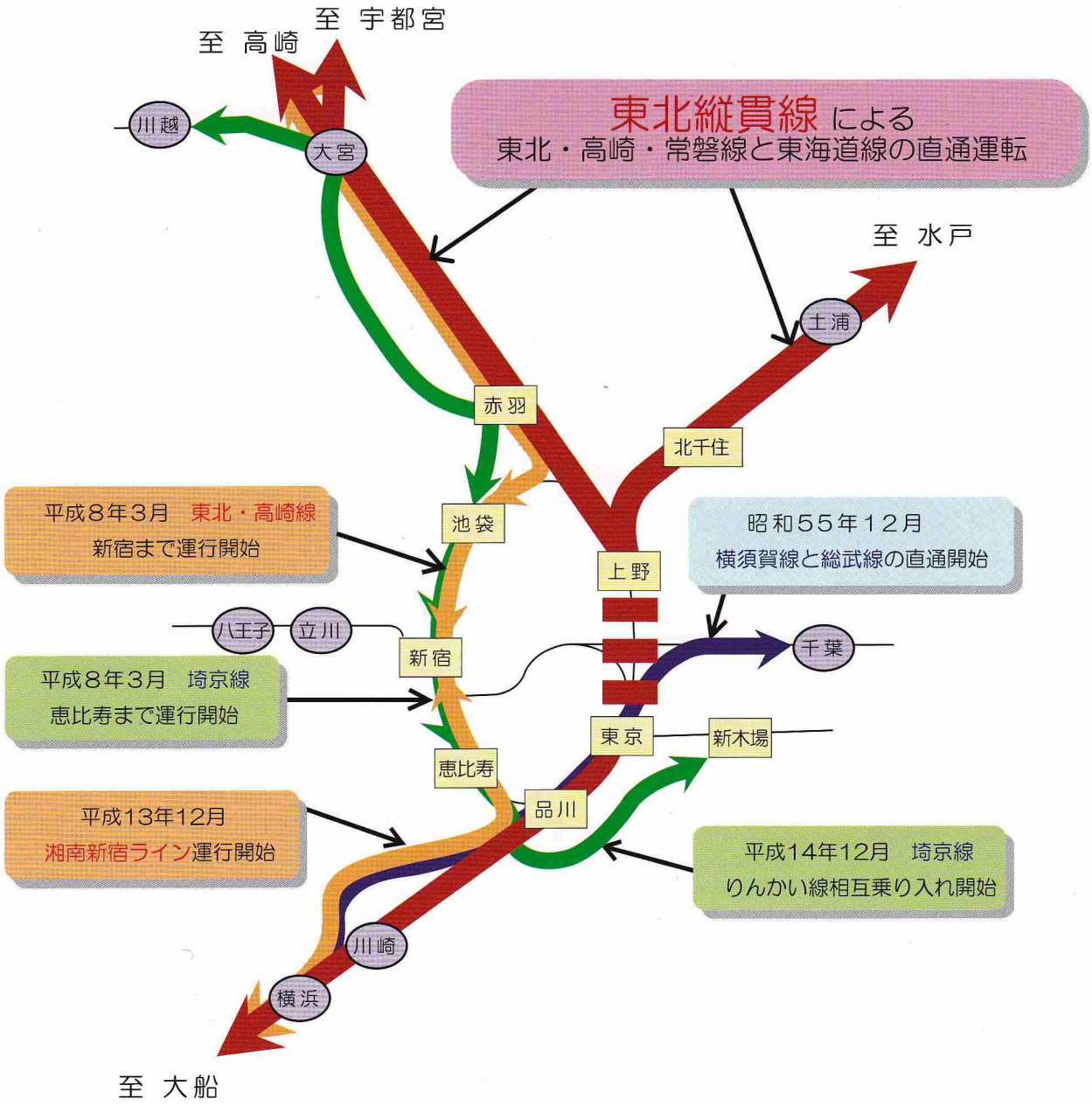
・鉄道ネットワークの強化

首都圏を南北に結ぶ輸送ネットワークがさらに強化されることにより、東北・高崎・常磐線方面と東海道方面相互の交流を促進し、地域の活性化にも寄与します。

■ 直通輸送への取り組み

JR東日本では、「通勤時間帯の混雑率の緩和」「目的地までの所要時間短縮」「乗り換えの解消」といった、お客さまの利便性向上を目指し、直通輸送体系を整備してきました。

最近では、埼京線とりんかい線相互乗り入れ、東北・高崎線と東海道・横須賀線（湘南新宿ライン）の直通運転を実現し、お客様の利便性向上はもちろん、地域間の連携・交流・活性化を促進する役割を果たしています。



（景観を考慮し、透光板を採用した外観）

（問い合わせ・連絡先）

東日本旅客鉄道株式会社　東京工事事務所

東北縦貫線プロジェクト　　電話03−5388−6502

神田事務所　　電話03−5295−0131